

(19) 日本国特許庁 (J P)

(12) 公 開 特 許 公 報 (A)

(11) 特許出願公開番号

特開平10-194352

(43) 公開日 平成10年(1998) 7月28日

(51) Int.Cl.<sup>6</sup>

識別記号

F I

B 6 5 D 81/32

B 6 5 D 81/32

C

A 2 3 L 2/00

17/42

B 6 5 D 17/42

85/72

F

85/72

A 2 3 L 2/00

W

審査請求 未請求 請求項の数 5 O L (全 6 頁)

(21) 出願番号

特願平8-351670

(22) 出願日

平成 8 年(1996)12月27日

(71) 出願人 597001589

伊藤 武夫

大阪府豊中市東豊中町 1-9-3

(72) 発明者 伊藤 武夫

大阪府豊中市東豊中町 1-9-3

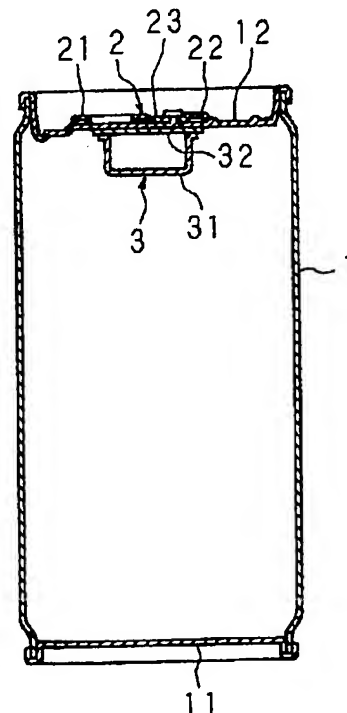
(74) 代理人 弁理士 河野 登夫 (外 1 名)

(54) 【発明の名称】 飲料容器及び容器詰飲料

(57) 【要約】

【課題】 時々の自己の嗜好にあった風味に変更することができるようにする。

【解決手段】 飲料容器における容器本体 1 内に、風味添加剤が詰められている風味袋 3 を付設し、前記容器本体 1 に、押圧操作により撓む押圧操作部 13 及び該押圧操作部 13 の撓みにより移動して風味袋 3 を破る突破り体 4 を設けて、風味袋 3 を破ることにより、前記風味添加剤を容器本体 1 内に取り出すようにした。



## 【特許請求の範囲】

【請求項1】 飲料が詰められるべき容器本体及び該容器本体を開封する開封体を具備してなる飲料容器において、容器本体内に付設されるべき風味袋を容器本体の外側から破る破袋手段を備えていることを特徴とする飲料容器。

【請求項2】 前記破袋手段は、容器本体又は開封体に付設されて風味袋を容器本体の外側から突き破る突破り体である請求項1記載の飲料容器。

【請求項3】 請求項1記載の飲料容器における容器本体に飲料が詰められ、前記容器本体内に、風味添加剤が詰められている風味袋が付設されている容器詰飲料。

【請求項4】 前記破袋手段は、容器本体又は開封体に付設されて風味袋を容器本体の外側から突き破る突破り体である請求項3記載の容器詰飲料。

【請求項5】 前記破袋手段は、容器本体に設けられて押圧操作により撓む押圧操作部及び該押圧操作部の撓みにより移動して風味袋を破る突破り体を備えている請求項3記載の容器詰飲料。

## 【発明の詳細な説明】

## 【0001】

【発明の属する技術分野】本発明は、飲料が詰められるべき容器本体及び該容器本体を開封する開封体を具備してなる飲料容器、及び前記容器本体に飲料が詰められている容器詰飲料に関する。

## 【0002】

【従来の技術】コーヒー・紅茶・ジュースなどの容器詰飲料は、原材料に砂糖・ミルクなどの添加剤を混ぜて特有の風味をもたせたものが、一端部に底蓋を他端部に天蓋を夫々有する容器本体に詰められ、天蓋に設けられている開封体を操作して開封することにより、容器本体内の飲料を開封部から飲むことができる。また、容器詰飲料の風味は、容器本体に詰められる以前の製造過程でメーカーにより決められた特定の風味になっており、また、メーカー毎に風味を違えている。

## 【0003】

【発明が解決しようとする課題】容器詰飲料は嗜好品であるにも拘らず、その風味はメーカーにより決められているため、ユーザーが容器詰飲料を購入する場合、自己の嗜好に近い風味を有するメーカーの飲料を選ぶことになる。しかしながら、自己の嗜好は、体調・季節・気温などにより変化するもので、時々により濃い目・薄い目・甘い目のものが欲しくなっても、その嗜好にあう飲料を飲むことができなかった。また、容器詰飲料は、第3者から買い与えられることが多いのであるが、この場合においては自己の嗜好にあわない飲料であっても飲まざるを得ないことになる。

【0004】本発明は、上述のような事情に鑑みてなされたものであり、風味袋を内蔵し、該風味袋を容器本体の外側から破袋可能とすることにより、時々自己の嗜好

好にあった風味に変更することができるようになることを目的とする。

## 【0005】

【課題を解決するための手段】本発明に係る飲料容器は、飲料が詰められるべき容器本体及び該容器本体を開封する開封体を具備してなる飲料容器において、容器本体内に付設されるべき風味袋を容器本体の外側から破る破袋手段を備えていることを特徴とするものである。

【0006】この発明にあつては、容器本体の外側から破袋手段を操作することができ、この破袋手段の操作により、容器本体内に付設されるべき風味袋を破ることができる。従つて、容器本体に飲料が詰められ、容器本体に、風味添加剤が詰められている風味袋が付設されることにより、飲料の風味を、時々自己の嗜好にあう風味に変えることができる。

【0007】また、前記破袋手段は、容器本体又は開封体に付設されて風味袋を容器本体の外側から突き破る突破り体であることを特徴とする。この発明にあつては、風味袋を突破り体により容易に、しかも確実に突き破ることができるのであり、また、風味袋が複数個設けられている場合においても、適宜の風味袋を容易に破ることができ、風味を微調節することができる。

【0008】また、前記飲料容器における容器本体に飲料が詰められ、前記容器本体内に、風味添加剤が詰められている風味袋が付設されていることを特徴とするものである。この発明にあつては、容器本体の内側に、風味添加剤が詰められた風味袋が付設されており、しかも、この風味袋は、容器本体の外側から破ることが可能になっているため、容器詰飲料を自己が購入する場合においても、また、第3者から買い与えられる場合においても、前記風味袋を破ることにより飲料の風味を、時々自己の嗜好にあう風味に変えることができる。

【0009】また、前記破袋手段は、容器本体に設けられて押圧操作により撓む押圧操作部及び該押圧操作部の撓みにより移動して風味袋を破る突破り体を備えていることを特徴とするものである。この発明にあつては、押圧操作部を押圧操作しない限り風味袋を破ることができないので、風味袋が誤って破られるのを有効に防止できる。

## 【0010】

【発明の実施の形態】以下本発明をその実施の形態を示す図面に基づき具体的に説明する。図1は缶コーヒー・缶紅茶・缶ジュースなどの飲料容器の縦断面図、図2は平面図、図3は要部の拡大断面図である。飲料容器は、一端部に底蓋11を他端部に天蓋12を夫々有するスチールまたはアルミニウム製容器本体1の前記天蓋12に開封体2が設けられている。そして、この飲料容器1内にコーヒー・紅茶・ジュースなどの飲料を詰めたものが容器詰飲料である。

【0011】開封体2は、リング状の指掛部21及び該

3

指掛部21の一端側に連続する押圧部22並びに該押圧部22と指掛部21との間にあって押圧部22と連続し、前記天蓋12にピン止めされる止着部23とを有しており、指掛部21に人指指または中指を引掛けて、引き起こすことにより、天蓋12の前記押圧部22との対向部分が押圧されて、押圧部22との対向側部分が略C字形に破断され、指掛部21を引き起方向と反対側に倒伏させることにより、図5のように天蓋12の破断片12aが容器本体1の内に屈曲して、開封されるように構成されている。

【0012】図1～図3に示すように容器本体1における天蓋12の非開封部内面には、アルミ泊などの薄肉シートにより少なくとも一つの風味袋3を付設し、該風味袋3に、砂糖・ミルク・飲料の原材料などの風味用添加剤が詰められるようにしている。この風味袋3は、例えば図3のように一側が開口する袋部31及び該袋部31の開口端に結合する蓋部32とを備え、該蓋部32に、一端に針部41を他端に鋸部42を夫々有する突破り体4を、針部41が袋部31に進入するように突刺し保持している。

【0013】また、前記天蓋12における風味袋3との対向部分には、外向きに膨出して前記突破り体4の鋸部42を受入れ、突破り体4とともに破袋手段を構成する押圧操作部13がリング状の薄肉部14を介して設けられ、該押圧操作部13を容器本体1の外側から押圧することにより、突破り体4を移動させ、針部41が風味袋3の袋部31を突き破り、風味袋3内の添加剤が容器本体1内に取り出すことができるようにしている。

【0014】風味袋3に詰める充填剤として、容器詰飲料がコーヒーである場合は、例えば砂糖・粉または液ミルク・粉状原材料であり、また、容器詰飲料が紅茶である場合は、例えば砂糖・レモン液・液状原材料であり、また、容器詰飲料がジュースである場合は、例えば砂糖・粉または液状原材料であり、また、容器詰飲料が牛乳である場合は、例えば砂糖である。

【0015】尚、破袋手段を構成する突破り体4は、図3のように風味袋3に保持する構成とする他、図4に示すように、天蓋12に設ける前記押圧操作部13の内面に保持させて、押圧操作部13を容器本体1の外側から押圧することにより、突破り体4を移動させ、針部41が風味袋3の蓋部32を突き破り、風味袋3内の添加剤が天蓋12と風味袋3との間の流通路15から容器本体1内に取り出すことができるようにしてもよい。この場合、前記天蓋12には、押圧操作部13に連続する外向き膨出の前記流通路15を設ける。

【0016】また、突破り体4は、図3、図4のように前記開封体2と別個に設ける他、前記天蓋12の破断片12aを利用してもよい。つまり、開封体2を前記したように操作して天蓋12を略C字形に破断した場合、破断片12aにより風味袋3を破ることができるように構

4

成してもよい。この場合、天蓋12を上述のように略C字形に破断した後、開封体2を燃えることにより前記破断片12aを撚り、該破断片12aにより風味袋3を破るようにしてもよい。

【0017】また、風味袋3は、一つである他、複数個であってもよい。この場合、風味袋3に対応して前記突破り体4及び押圧操作部13を設けるのである。斯く構成することにより、適宜の風味袋3を容易に破ることができ、風味を微調節することができる。例えば飲料がコーヒーである場合、砂糖だけの取り出し、又は砂糖及びミルクの取り出しができるので、それだけ風味を微調節することができる。また、この実施の形態においては、各風味袋3に異なる種類の添加剤を詰める他、量を異ならせた同じ種類の添加剤を詰めてもよい。また、風味袋3と、突破り体4及び押圧操作部13を有する破袋手段とは、容器本体1の天蓋12に設ける他、容器本体1における底蓋11の内面に図3、図4と同様に設けてもよい。

【0018】以上のように、容器本体1における天蓋11の内面に容器本体1の外側から破袋手段により破ることが可能とした風味袋3を設けているため、容器本体1内に詰められた飲料の風味が自己の嗜好にあう場合は、風味袋3を破ることなく開封体2により容器本体1を開封して飲むことができるのであり、また、時々自己の嗜好にあわない風味である場合は、天蓋12の押圧操作部13を押圧することにより、突破り体4を移動させ、風味袋3を突き破って、該風味袋3内の添加剤を容器本体1内に取り出すことができる。これにより、甘みを増した飲料又は濃い目の飲料に変えることができるのである。以上の実施の形態では、缶を用いてなる飲料容器及び容器詰飲料について説明したが、その他、瓶・樹脂容器・紙容器・アルミ容器を用いてなる飲料容器及び容器詰飲料であってもよい。

【0019】瓶及び樹脂容器の場合、図6に示すように容器本体1を開封する王冠・ねじ栓を用いてなる開封体2の内面に前記風味袋3を設けるのである。この実施の形態においては、風味袋3の中途に、剥ぎテープ5を用いてなる破袋手段を設け、該剥ぎテープ5を剥離することにより風味袋3を破ることができるように構成している。この場合は、開封体3を操作して容器本体を開封した後、開封体2と一体になった状態で取外された風味袋3の剥ぎテープ5を剥離し、風味袋3内の添加剤を容器本体1内に移すのである。なお、この実施の形態において、図示していないが、図3、図4と同様、王冠・ねじ栓を用いてなる開封体2に、前記突破り体4及び押圧操作部13を有する破袋手段を設け、押圧操作部13を押圧することにより、突破り体4を移動させ、風味袋3を突き破って、該風味袋3内の添加剤を容器本体1内に取り出すことができるように構成してもよい。斯く構成した場合は、容器本体1を開封することなく風味袋3を破

ることができるのである。

【0020】紙容器及びアルミ容器の場合、図7及び図8に示すように四角筒状部の一端部に底蓋が設けられた容器本体1の他端部に、略V字状の折り目から内側に折り曲げられる一対の折曲部24、24及び該折曲部24、24間にあって端縁部が互いに接合される接合部25、25を有する開封体2が設けられている。この開封体2は、折曲部24、24を内側に折曲げた状態で接合部25、25の端縁部を互いに接合することにより容器本体1を密閉している。そして、接合部25、25の一端側を図7矢印Xのように開いて、この接合部25、25の開放部分を図7矢印Y方向に押圧することにより、一方の折曲部24を外向きにV字状に突出させて開封することができる。

【0021】このように開封可能とした開封体2における一方又は他方の折曲部24の内面に、前記接合部25、25を図7矢印F方向に押圧することにより破ることができる少なくとも一つの風味袋3を設けるのである。この風味袋3は、アルミ箔などの薄肉シートにより形成されている。この実施の形態においては、容器本体1を開封することなく、破袋手段を構成する接合部25、25を図7矢印F方向に押圧することにより、風味袋3を接合部25、25間に挟んで破ることができるのである。また、この実施の形態においても、図3、図4と同様に、突破り体4を設け、容器本体1又は開封体2の一部を押圧することにより、突破り体4を移動させ、風味袋3を突き破って、該風味袋3内の添加剤を容器本体1内に取り出すことができるように構成してもよい。

【0022】

【発明の効果】本発明に係る飲料容器によれば、容器本体の外側から破袋手段を操作することができ、この破袋手段の操作により、容器本体内に付設されるべき風味袋を破ることができるから、容器本体に飲料が詰められ、容器本体内に、風味添加剤が詰められている風味袋が付設されることにより、飲料の風味を、時々自分の嗜好にあう風味に変えることができる。

【0023】また、飲料容器の容器本体または開封体には、風味袋を容器本体の外側から突き破る突破り体が付設されているため、風味袋を突破り体により容易に、しかも確実に突き破り得るのである。ることができるのであり、また、風味袋が複数個設けられている場合においても、適宜の風味袋を容易に破ることができ、風味を微

調節することができる。

【0024】また、本発明に係る容器詰飲料によれば、容器本体の内側に、風味添加剤が詰められた風味袋が付設されており、しかも、この風味袋は、容器本体の外側から破ることが可能になっているため、容器詰飲料を自己が購入する場合においても、また、第3から買い与えられる場合においても、前記風味袋を破ることにより飲料の風味を、時々自分の嗜好にあう風味に変えることができる。

【0025】また、容器詰飲料の容器本体または開封体には、風味袋を容器本体の外側から突き破る突破り体が付設されているため、風味袋を突破り体により容易に、しかも確実に突き破ることができるのであり、また、風味袋が複数個設けられている場合においても、適宜の風味袋を容易に破ることができ、風味を微調節することができる。

【0026】また、容器本体には、押圧操作により撓む押圧操作部及び該押圧操作部の撓みにより移動して風味袋を破る突破り体が付設されているため、押圧操作部を押圧操作しない限り風味袋を破ることができないのであり、風味袋が誤って破られるのを有効に防止できる。

【図面の簡単な説明】

【図1】本発明に係る飲料容器及び容器詰飲料の断面図である。

【図2】同平面図である。

【図3】同要部の拡大断面図である。

【図4】同要部の別の実施形態を示す例拡大断面図である。

【図5】同風味袋の破り手段の別の実施形態を示す断面図である。

【図6】同瓶及び樹脂容器を用いてなる飲料容器及び容器詰飲料の断面図である。

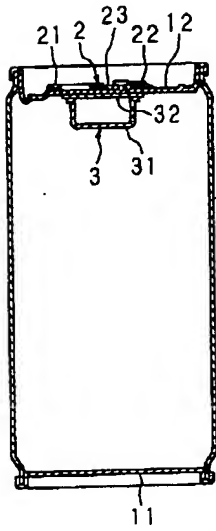
【図7】同紙容器及びアルミ容器を用いてなる飲料容器及び容器詰飲料の断面図である。

【図8】図7における開封体部分を展開した説明図である。

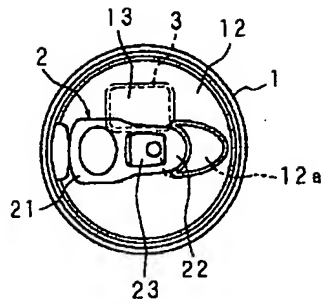
【符号の説明】

- 1 容器本体
- 2 開封体
- 3 風味袋
- 4 突破り体

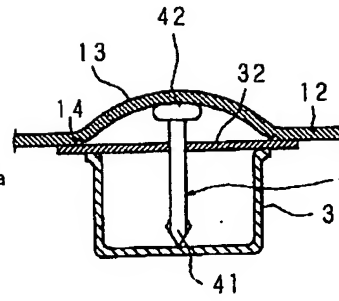
【図1】



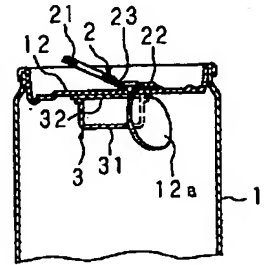
【図2】



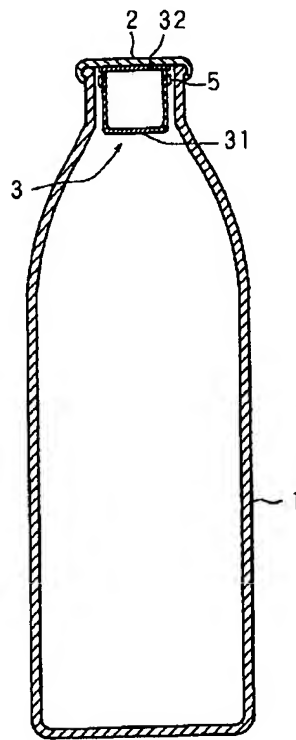
【図3】



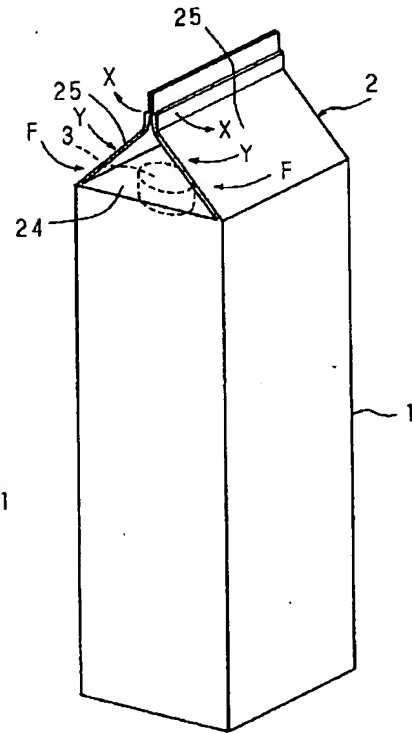
【図5】



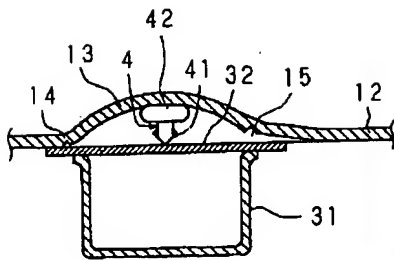
【図6】



【図7】



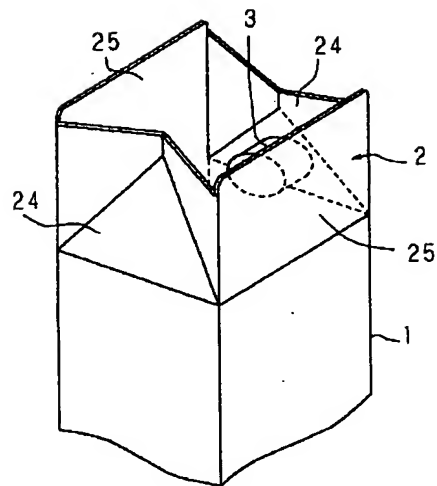
【図4】



(6)

特開平10-194352

【図8】



DERWENT-ACC-NO: 1998-462218

DERWENT-WEEK: 200475

COPYRIGHT 2005 DERWENT INFORMATION LTD

TITLE: Drink container for e.g. coffee, black tea and juice -  
comprises bag breaking mechanism to tear flavour bag  
attached in main body from outer side of main body

PATENT-ASSIGNEE: ITO T[ITOTI]

PRIORITY-DATA: 1996JP-0351670 (December 27, 1996)

PATENT-FAMILY:

PUB-NO	PUB-DATE	LANGUAGE	PAGES	MAIN-IPC
JP 3588685 B2	November 17, 2004	N/A	004	B65D 081/32
JP 10194352 A	July 28, 1998	N/A	005	B65D 081/32

APPLICATION-DATA:

PUB-NO	APPL-DESCRIPTOR	APPL-NO	APPL-DATE
JP 3588685B2	N/A	1996JP-0351670	December 27, 1996
JP 3588685B2	Previous Publ.	JP 10194352	N/A
JP 10194352A	N/A	1996JP-0351670	December 27, 1996

INT-CL (IPC): A23L002/00, B65D017/42 , B65D081/32 , B65D085/72

ABSTRACTED-PUB-NO: JP 10194352A

BASIC-ABSTRACT:

Drink container consists of main body (1) in which a drink is packed. An opening body (2) which opens (1) is situated at the upper portion of (1) and a flavour bag (3) in which a flavour additive is packed is attached inside (1) in a suspended state from the upper portion. A bag breaking mechanism is provided to tear the flavour bag from outside the main body.

ADVANTAGE - The bag allows one to change the flavour of a drink according to taste. The flavour bag can be reliably broken from the outside and a selected flavour bag can be broken when two or more are present. Fine tuning of

flavours is possible.

CHOSEN-DRAWING: Dwg.1/8

DERWENT-CLASS: D13 Q32 Q34

CPI-CODES: D03-H01C;

----- KWIC -----

Basic Abstract Text - ABTX (1):

Drink container consists of main body (1) in which a drink is packed. An opening body (2) which opens (1) is situated at the upper portion of (1) and a flavour bag (3) in which a flavour additive is packed is attached inside (1) in a suspended state from the upper portion. A bag breaking mechanism is provided to tear the flavour bag from outside the main body.

Basic Abstract Text - ABTX (2):

ADVANTAGE - The bag allows one to change the flavour of a drink according to taste. The flavour bag can be reliably broken from the outside and a selected flavour bag can be broken when two or more are present. Fine tuning of flavours is possible.

Title - TIX (1):

Drink container for e.g. coffee, black tea and juice - comprises bag breaking mechanism to tear flavour bag attached in main body from outer side of main body

Standard Title Terms - TTX (1):

DRINK CONTAINER COFFEE BLACK TEA JUICE COMPRISE BAG BREAK MECHANISM TEAR  
FLAVOUR BAG ATTACH MAIN BODY OUTER SIDE MAIN BODY